

# 無骨な中に気品感じるたたずまい 森に同化するコンクリートアーチ橋

北海道開拓の足跡を今に伝える産業遺産。上士幌町の森深くに点在するコンクリートアーチ橋も、そんな歴史の“証人”の一つ。東大雪の自然と同化しながら、往時の隆盛を今に伝えます。

東大雪の森の中に残るコンクリートアーチ橋は、四半世紀前まで運行されていた旧国鉄士幌線の鉄道橋です。上士幌駅以北は1km進むごとに25m標高が上がる急勾配で終着の十勝三股駅は海拔661.8mにもなる北海道で最も高い位置にある駅でした。上士幌から糠平、十勝三股へと続く鉄路は道内屈指の山岳鉄道で、建設費を抑えるため、砂利や砂などの建材を現地調達できるコンクリートの橋が造られました。国立公園内の構造物であったことから環境への配慮もなされ、曲線が美しいアーチ型が採用されました。

アーチ橋は大小60にも及び、戦前の1936〜38年に造られた橋と、戦後の1955年

に造られた橋の二つに大別されます。糠平ダムの建設に伴い付け替えられた新しい線路のアーチ橋が戦後に造られたもので、季節によって見え隠れする幻の橋、タウシユベ



第三音更川橋梁

には帯広―糠平間が廃止されました。鉄路としての役割を終えたアーチ橋は97年、解体の危機を迎えましたが、地域住民らによる保存運動の広がりによって見守られ、翌98年、34

の橋と線路跡を上士幌町が取得。コンクリートアーチ橋梁群は2001年に北海道遺産にも選定され、橋を巡るツアーが行われるなど、今や観光資源として重要な役割を担うようになっていきます。

無骨な中にも凛とした気品を感じさせるアーチ橋たち。静かに、美しくたたずむその姿は、見る者の望郷の念をかき立てます。

## Information

NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会では、コンクリートアーチ橋梁群の保存に関するさまざまな情報の発信と活動を展開しています。  
☎01564・2・3385  
<http://www3.ocn.ne.jp/~arch/>



至十勝三股・層雲峡

**アーチ橋**  
**登録有形文化財**

- 国道 (273)
- 一般道 (85)
- 林道
- 駐車スペース (P)
- 旧士幌線
- 北海道自然歩道 (8.5km)
- トンネル・覆道

### 十三の沢橋梁

(1938年 長さ58m)

### 第六音更川橋梁

(1938年 長さ96m)

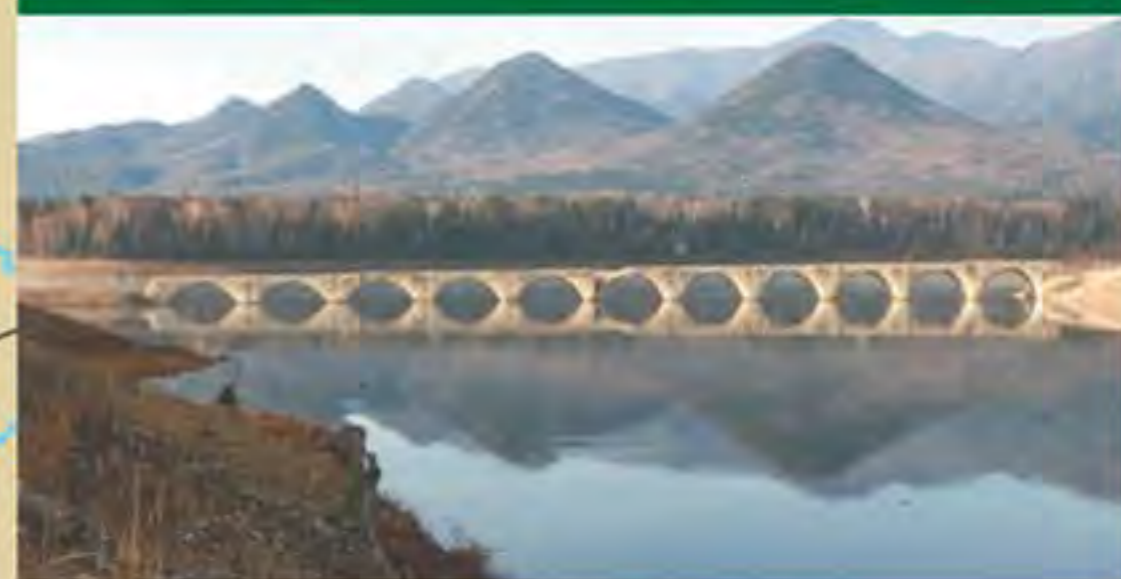
### 第五音更川橋梁

(1938年 長さ109m)



### タウシュベツ川橋梁

(1937年 長さ130m)



### 三の沢橋梁

(1955年 長さ40m)



### 第四音更川橋梁

(1936年 長さ91m)

### 第二音更川陸橋

(1936年 長さ73m)



至上士幌・帯広

### 五の沢橋梁

(1955年 長さ7m)

### 糠平川橋梁

(1955年 長さ63m)

### 中の沢橋梁

(1955年 長さ50m)

### 下の沢橋梁

(1955年 長さ47m)

### 糠平第一橋梁

(1955年 長さ47m)

### 第三音更川橋梁

(1936年 長さ71m)



### 勇川橋梁

(1936年 長さ4m)



至然別湖